

イエスの死とは

この半年以上、「イエスの死は、われわれ人間の本源へ本質的に何を語りかけているのか？」を考え続けています。家族や、多くの方の死に直面してきたのですが、イエスの死と何が違うのかと……。しかも、二千年前の出来事が今の私と何ゆえに結びつくのか？と考えるのです。キリスト教にとって「十字架」は言うまでもなく、最大の重要事です。なぜなのか？キリスト教の基本教理はしっかりと確立されています。「十字架による贖いの完成」はキリスト教の公式としては揺らぐことはありません。この二千年間、キリスト者は証し続けてきたのです。しかし、今生きる人間の根源にどういう「力、よろこび、感謝、……」となっているかと言う「問い」なのです。公式を成立させている内容のことです。この問いは、「一人の人の死が他者(民族)の救となぜなるのか」ということです。

「ユダヤ人はすでにハスモン朝時代から、殉教していった聖人たちによってイスラエルの罪が贖われた、と信じはじめていた」といいます(「ユダヤ人から見たキリスト教」フルツサル、ショーレム著、山本書店 74ページより)。

このテーマはもっと前からイザヤ書第53章が見事に表現しました。『彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに』と、「彼の苦しみ」に「わたしたち」とが結びついたのです。

このように結び付くには、わたしたちが「一体」となっていなければ成立しません。イエスはわれわれ人間の本质において「一体」となられたのです。

それ故に、「十字架」(愛)はわれわれの本质(自己中心)、根源のところと結び着くときに十字架の出来事が「今、ここで」起こるのです。

(山下誠也)